

令和元年度決算に係る

定期監査資料

令和2年5月

水産試験場

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	職員の定員、現員調べ	1頁
4	役付職員の調べ	1頁
5	主な事業に関する調べ	2頁～5頁
6	収入証紙取扱額調べ	6頁
7	現金の取扱状況	6頁
8	財産に関する調べ	6頁～8頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
9	財産の貸付及び使用許可調べ	9頁～10頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
10	借受不動産明細調べ	10頁
11	職員駐車場の管理状況調べ	10頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
12	寄附物件の受納状況調べ	11頁
13	備品の処分状況調べ	11頁
14	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	11頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
15	船舶（公有財産の船舶含む）の管理状況	11頁
16	事業別予算執行状況調べ	11頁
17	生産物（品）に関する調べ	12頁
18	試験研究調査事業別実施状況調べ	12頁～14頁
19	船舶運航調べ	14頁～15頁
20	用船の状況調べ	15頁
○	意見、要望等	15頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

該当なし

(2) 監査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和2年5月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	31.4.1現在	当該年度	31.4.1現在	当該年度	31.4.1現在	当該年度	31.4.1現在	
定員	1	1	17	17			18	18	
現員	() 1	() 1	() 17	() 17	()	()	() 18	() 18	
過不足(Δ)									
臨時職員									
非常勤職員	1	1	2	2			3	3	事務1名 調査・研究補助2名

4 役付職員の調べ

(令和2年5月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	宮永 貴幸	3	1	
課長補佐	山本 英治	1	1	出納員
漁場開発室長	渡辺 秀洋	3	1	
海洋資源室長	石原 幸雄	0	1	
船長（第一鳥取丸）	森脇 誠	9	1	
機関長（第一鳥取丸）	松尾 敏幸	6	1	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
浮魚資源変動調査	9,198		6,326	2,872
鳥取元気プロジェクト	関連なし			
元気づくり総合戦略	関連なし			
<p>(概要)</p> <p>浮魚資源変動調査事業のうちマアジ、マイワシ、マサバ資源調査について</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の漁業生産は、まき網漁業によって境港に水揚げされるマアジ、サバ類、イワシ類等の「浮魚」の寄与するところが大きい。浮魚資源は海洋環境等の影響による資源変動が大きく、漁業者や流通・加工業者等に経営指針となるよう資源動向や漁場形成に関する情報を提供する。 また、資源を守りながら安定的に漁獲を続けるために、(国研)水産研究、教育機構と連携し、国が行う資源評価の基になる基礎データを的確に収集し、資源管理方策への提言を行う。 <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場調査や加入量調査を実施し、資源評価のための基礎データを収集した。また主要な漁期前である7月、12月、3月に漁海況予報会議を行い、水産関係者に資源動向や漁場形成要因等の情報を提供した。 <p>【加入量調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5～6月にかけて、第一鳥取丸により、鳥取県沖におけるマアジの新規加入量調査(漁場加入する前の幼稚魚の分布量調査)を行い、加入量の予測推定を行った。 3～5月にかけて、第一鳥取丸により、鳥取県沖におけるマイワシ資源動向把握のための調査として、ニューストーンネットを用いてマイワシ仔稚魚の採集を実施した。 <p>イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし(市場調査、試験船による調査を継続) <p>ウ 成果及び効果</p>				
魚種	加入量調査結果等に基づくコメント	水揚量対前年 又は平年比	水揚量の減少要因	
マアジ	本年度の加入量指標値は0.70と2年連続で減少。直近の5年間で2番目に低く、マアジの加入量は前年を下回ると考えられた。当該結果を7月に水産関係者へ向けて公表し、報告会後の8月から12月の水揚量は予報どおり前年を下回った。	前年比 78% 平年比 64%	水揚げの主体となる0～1歳魚(2018、2019年生まれの群)の加入量が少ないため。	
マイワシ	加入量調査の結果、マイワシ仔魚が193尾採集された。この量は前年を下回ったが、平年並みであった。近年、加入状況は良く、資源水準は中位で増加傾向にあるが、本年の境漁港の水揚量は3,771トンと極めて低調に推移した。	前年比 22% 平年比 19%	両魚種とも3月以降水揚げが極端に減少し、日本海側全域で同様に不漁傾向を示した。この理由として主漁期の春先及び秋期に水温が高めに推移し、夜間衛星画像で北朝鮮付近に平年は少ない灯火が多数確認されたことから、高水温を避けて大きく北へ回遊した可能性が考えられた。	
マサバ	資源水準は低位で増加傾向にあると推定されているが、水揚量は20,935トンと前年を大きく下回り、平年と比較しても少なかった。	前年比 49% 平年比 76%		

エ 課 題

- ・ 業界からの確かな資源動向等の情報提供と漁況予測への強い要望があり、高精度の現場データ収集に加え、近年見られる水揚げパターンの変化を考慮した漁況予測の検討を行う必要がある。
- ・ 現在のABC（生物学的許容漁獲量）算定方法は水揚量の影響が大きく、資源水準が悪くないものの水揚量が減少した（＝来遊が少ない、魚種選択等）魚種において、ABCが低く算定されてしまう可能性がある。資源水準とABCの乖離が大きいと、漁業者が獲り損ねるリスクを被る恐れがあるため、現場の実態をABC算定へ適切に反映出来るよう水研機構と協議していく必要がある。

【参考】

境漁港における主要浮魚の水揚高（3か年）

魚種	水揚量 (t)			水揚金額 (百万円)		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1
マアジ	18,555	19,261	14,941	1,183	1,170	1,701
マイワシ	36,234	16,895	3,771	2,100	682	119
マサバ	25,683	42,845	20,935	1,868	2,995	1,813

出所：水揚量は水産試験場、水揚金額は境港水産事務所調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
底魚資源変動調査	16,263		6,956	9,307
鳥取元気プロジェクト	関連なし			
元気づくり総合戦略	関連なし			

(概要)

底魚資源変動調査のうちズワイガニ稚ガニの分布調査について

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・ 沖合底びき網の平成30年の年間生産額は47.5億円であり、ズワイガニは51%を占める重要魚種である。また、ロシアからの輸入の厳格化や主な流通先である北陸からの需要増加で、近年、単価は上昇傾向にあり、平成30年漁期の漁獲金額は過去最高の23.7億円であった。さらに、鳥取県は蟹取県やウェルカニキャンペーンなどズワイガニを使ったPRを行っており、観光資源としても重要である。
- ・ 一方、(国研)水産研究・教育機構 日本海区水産研究所(以下、「日水研」と呼ぶ)及び当場の調査により、令和元年漁期から令和3年漁期にかけ、大きく資源が減少することが示された。
- ・ そこで、従来の着底トロール網では十分採集できなかった甲幅50mm未満の小型ズワイガニ(稚ガニ)の分布を調査し、今後の本県におけるズワイガニ資源動向を把握することを目的とした。

(イ) 事業の実施状況

- ・ 令和元年度にズワイガニ稚ガニ用桁網(以下、「桁網」と呼ぶ)を作成し、試験船「第一鳥取丸」により、8月29~30日に鳥取沖で稚ガニ分布調査を行った。

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 桁網の製作には、他県での事例を参考にし、第一鳥取丸の幅に合わせ、桁幅4.9m、網長15.2mとし、網の糸を太くして補強し耐久性を高めるとともに、漁業用ファスナーを活用し、採集物を取り出しやすくするなどの操作性、作業性に配慮した。
- ・ 稚ガニ分布調査は、鳥取県沖合底びき網漁業者の協力のもと、稚ガニが多い場所を教え受け、調査点の選定を行った。

ウ 成果及び効果

- ・ 稚ガニ分布調査では、大山町沖水深157~200mの海域5地点で調査を実施し、甲幅18~88mm(平均49mm)の個体が299尾採集された。調査した海域では、水深169mで稚ガニの分布密度が最も高く(図1)、稚ガニが比較的多く分布している他県と比較しても分布密度は全体的に高い傾向が見られた。これまで着底トロール調査では曳網していなかった190m以浅に甲幅50mm未満の個体が多く分布することが判明した。

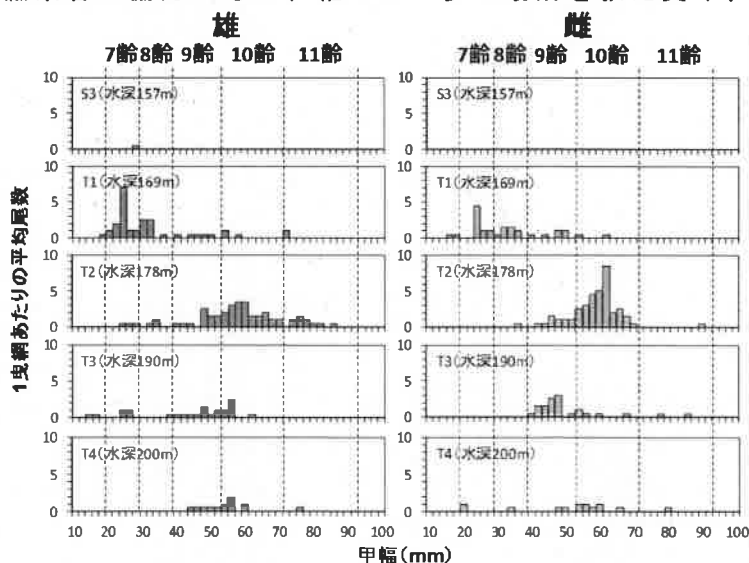


図1. 桁網で採集されたズワイガニの甲幅組成

エ 課題

- ・ 令和元年度の稚ガニ調査は、本県の沖底漁場の一部に留まるため、資源動向の予測のために、調査範囲の拡大やデータの蓄積が必要である。
- ・ さらに、資源動向の予測から関係団体と資源回復に向けた最善の漁獲方法についての協議材料とする必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
スマート漁業推進事業	20,282	14,059		6,223
鳥取元気プロジェクト	4柱(人、産業、まち、改革と絆)、70プロジェクト			
元気づくり総合戦略	大項目：1、中項目：(2)、小項目：(2)			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<ul style="list-style-type: none"> ・県内のベテラン漁業者から、近年、県沿岸の海洋環境が変化し、経験を基に漁場を選択しても漁場が形成されていないことも増えた、との意見を聞いている。 ・県沿岸域における海況データ(水温、塩分、潮流)を高頻度、広範囲に収集し、解析することで「海中の天気予報」を実現させ、予測情報を漁業者に公開することで操業の効率化(経費・労力の削減)による沿岸漁業のスマート化を推進する。 				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・「海中の天気予報」を実現するために、既存の沿岸潮流ブイ及び、漁業者に測定装置を貸与し収集するデータを、解析設備と知識を有する九州大学応用力学研究所に転送する必要がある。 ・国の補助事業(補助率1/2)を活用し、水温・塩分測定装置12台と、経年劣化のため安定したデータ収集が困難となっている沿岸潮流ブイを、新たに1台導入・整備しようとした。しかし、国から水温・塩分測定装置は補助対象外とされたため、令和元年度では、沿岸潮流ブイ1台のみを整備することとした。 ・沿岸潮流ブイの測定データを、九州大学応用力学研究所へ転送するシステムを整備した。 				
イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> ・特に無し 				
ウ 成果及び効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の潮流情報提供システム(沿岸潮流の潮流観測結果を漁業者へ情報提供するシステム)を改修することで、観測結果を24時間体制で九州大学へ自動送信するシステムを整備した。 ・国の補助事業(補助率1/2)を活用し、沿岸潮流ブイ1台の購入手続きをした。 				
エ 課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業を活用した、測定装置導入が困難であったことから、令和2年度では、水温・塩分測定装置を国委託事業である「ICTを利用した漁業技術開発事業」に本県が参画し、導入を図ることとした。 				

6 収入証紙取扱額調べ
該当なし

7 現金の取扱状況
該当なし

8 財産に関する調べ
(1) 公有財産
ア 土地

(令和元年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考		
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)	価額 (円)			
行政財産	水産試験場	境港市竹内団地107	5,025.22	99,499,356	増加	H									
計			5,025.22	99,499,356	減少	H									
普通財産	(該当なし)														
計					増加	H									
合計			5,025.22	99,499,356	減少	H									
合計			5,025.22	99,499,356											

イ 建物

(令和元年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考	
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)		
行政財産	庁舎	境港市竹内団 地107	1,395.90	202,152,530	増加	H				H	1,395.90	202,152,530		
					減少	H				H				
			340.00	19,597,250							340.00	19,597,250		
計	漁具倉庫	境港市竹内団 地107	42.00	3,681,288							42.00	3,681,288		
			1,777.90	225,431,068							1,777.90	225,431,068		
普通財産	(該当なし)				増加	H				H				
					減少	H				H				
			0	0							0	0		
合計			1,777.90	225,431,068						1,777.90	225,431,068			

ウ 山林
該当なし

エ 動 産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機）

（令和元年1月31日現在）

区 分	前 年 度 末		本 年 度 中 の 増 減（△）			本 年 度 末 数 量	備 考
	取得年月日	数 量	年 月 日	数 量	取得又は処分価格		
船 舶	H9.2.27	(t) 199.00	-	-	- 円	(t) 199.00	第一鳥取丸
合 計		199.00				199.00	

オ 物 権
該当なし

カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等）

（ア） 異動状況

該当なし

（イ） 出願及び登録の状況

該当なし

（ウ） 活用の状況

該当なし

キ 有価証券
該当なし

（２） 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

該当なし

9 財産の貸付け及び使用許可調べ
 (1) 土地及び建物
 ア 土地

(令和2年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	事務所用地	境港市竹内団地 107	107.00㎡	H31.4.1	H1.9.11	H31.4.1 ～ R11.3.31	月額・年額 47,113	47,113	境港市竹内団地107	鳥取県無線漁業協同組合	文書ID 18-00332858
	鉄塔用地	"	93.00㎡	H31.4.1	H6.4.1	H31.4.1 ～ R6.3.31	月額・年額 59,091	59,091	"	"	文書ID 18-00327708
	電柱設置用地	"	本柱1本 支線4本	H31.4.1	H6.4.1	H31.4.1 ～ R6.3.31	月額・年額 7,500	7,500	鳥取市湯所町2丁目258	西日本電信電話株式会社鳥取支店	文書ID 18-00308026
	電柱設置用地	"	本柱 (共架施設)	R1.6.17	R1.6.17	R1.6.17 ～ R6.3.31	月額・年額 1,500	1,250	米子市加茂町2丁目51番地	中国電力株式会社米子営業所	文書ID 19-00078426
計								114,954			
普通財産 (該当なし)							月額・年額	0			
計								0			
合計								114,954			

イ 建物

(令和2年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考	
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名		
行政財産	アンテナ設置	境港市竹内団地107	0.1352㎡	H30.4.1	H20.2.12	H30.4.1 ~ R5.3.31	月額・年額 9,900	9,900	境港市竹内団地107	文書ID 18-00000648 19-00173486		
計								9,900				
普通財産	(該当なし)						月額・年額 0	0				
計								0				
合計								9,900				

(2) 物品
該当なし

10 借受不動産明細調べ
該当なし

11 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	境港市竹内団地107	12.50	1,000
普通財産	(該当なし)		

(2) 減免の考え方(減免を行った場合のみ)
該当なし

(3) 使用料の見直し
令和元年10月1日実施

1 2 寄附物件の受納状況調べ
該当なし

1 3 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不 用 決 定 年 月 日	処 分				備 考
			売 払 棄 却 の 別	売 払 方 法 ・ 棄 却 理 由	処 分 年 月 日	売 払 額 ・ 処 分 費 用	
双眼実体顕微鏡 他	S56.10.31他	R元.10.30	棄 却	売却価値がなく、棄 却が適当である。	R元.10.31	円 -	
合 計						-	

1 4 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
 有 ・ 無

(2) 物品の照合
 有 ・ 無

1 5 船舶(公有財産の船舶を含む。)の管理状況 (令和2年1月31日現在)

船 名	トン数	取 得 年 月 日	稼働 日数 日	修繕費等 円	左の主な内容 円	定係港又 は船籍港	占用料 円	備 考
第一鳥取丸	199.00	H9.2.27	85	189,455	着底トロール網修繕外			
計								

1 6 事業別予算執行状況調べ

目 名	水産試験場費	(令和2年1月31日現在)	
事業名	事業の概要(目的、実績等)		
県産魚出荷技術改良試験	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
海洋環境変動調査	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
浮魚資源変動調査	5	主な事業に関する調べ	に記載
	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
底魚資源変動調査	5	主な事業に関する調べ	に記載
	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
中海・美保湾資源生産力調査	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
水産情報発信事業	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載
スマート漁業推進事業	5	主な事業に関する調べ	に記載
	18	試験研究調査事業別実施状況調べ	に記載

17 生産物(品)に関する調べ

(単位: kg) (令和2年1月31日現在)

生産 部門	品名 種類	生産 計画 数量	生産数量			場内 使用	処分数量						分類 換	差 引 残	備 考	
			前年度か らの繰越	生産 購入	計		売却		目的外 使用		廃 棄	計				
							数量	金額	数量	金額		数量				金額
水産 試験 場	スルメイカ	0	0	61.1	61.1	61.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ソウハチ	0	0	9.0	9.0	9.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ズワイガニ雄	0	0	7.2	7.2	7.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ズワイガニ雌	0	0	63.1	63.1	63.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ケンサキイカ	0	0	19.2	19.2	19.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハタハタ	0	0	69.1	69.1	69.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0	0	228.7	228.7	228.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和2年1月31日現在)

事業名	実施計画 期間 (予算額) 支出済額	担当室	試験研究 調査の目的	試験研究調査の 成果・課題
県産魚出 荷技術改 良試験	30年度 ～ 2年度 円 (812,000) 677,580	海洋資源室	(単) カニの漁獲量日本一の鳥取県と して、蟹取県にふさわしい品質の ズワイガニの提供を可能とする活 魚保管技術の開発(カニ保管マニ ュアルの策定)を行う。また、観 光、贈答品、直売等で重宝される イカ類に対して、鳥取墨なし白イ カ『白輝姫』に続く、特徴あるイ カ類の提供が可能となる技術開発 を行う。	(成果) ズワイガニの水槽実験を行い、アン モニア耐性が想定より高く、水温8℃ でアンモニア濃度50mg/Lでも直ぐに 死滅や脚が脱落しないことが分かっ た。一方、水温を10℃や12℃に上げ るとアンモニア濃度が10mg/L以下でも 脚が脱落することが分かった。 コウイカの簡易墨止め器を開発し た。また、作業の効率化を図るため、 米子高専と共同でコウイカの墨止め 改良器を開発し、漁業者による試行を 実施した。さらに、アオリイカでも使 用できることが分かった。 (課題) 水温、アンモニア等濃度と脚の脱 落、死滅の関係の解析を行うこと。 墨止め改良器の墨止め器具の量産 化と漁業者による試行。
海洋環境 変動調査	18年度 ～ 円 (7,826,000) 5,039,117	海洋資源室	(委、単) ・海洋環境(水温等)の動向を把 握し、漁業者へ迅速な情報提供を 行う。 ・大型クラゲの来遊状況調査及び 情報提供を行い、漁業被害を防止 する。	(成果) 1月を除く毎月、試験船「第一鳥取 丸」を使用して水温、塩分等の海洋観 測を実施し、その結果を漁業者等へ情 報提供を行った。 12月には境港の漁業者・流通・加工 業者等を対象に、海洋観測結果等によ って得られた情報を元に、スルメイカ などの漁況を予測した結果を説明し た。 大型クラゲの入網情報は、(一社) 漁業情報サービスセンターに報告す

				るとともに、ホームページや漁海況会議等を通じて漁業者に情報提供を行った。 (課題) 魚類、イカ類の資源変動や来遊時期は、気候変化や海洋環境変化にตอบสนองしていることが明らかにされており、漁獲対象種の精度の高い漁況予測を行うため、現時点の海洋環境を把握し、過去のデータと比較解析していくことが重要と考える。
浮魚資源変動調査	20年度 ～ 円 (9,198,000) 6,445,364	漁場開発室	(委、単) ・浮魚(アジ、サバ、イワシ類、クロマグロ、イカ類)の資源状況を把握し、資源管理を推進するための管理方策検討の資料とする。	(成果) 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
底魚資源変動調査	20年度 ～ 円 (19,855,000) 9,742,194	海洋資源室	(補助、委、単) ・底魚(ハタハタ、カレイ類、ズワイガニ、ベニズワイ)の資源状況を把握し、資源管理を推進するための管理方策検討の資料とする。 ・ズワイガニの資源管理のために投棄ガニ(小型、漁期外)を把握する。	(成果) 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
中海・美保湾資源生産力調査	30年度 ～ 2年度 円 (814,000) 599,832	漁場開発室	(単) ・国交省の中海の造成浅場水域(大崎地先)において、生物調査(マハゼ等の水産資源の育成場としての機能を評価)を実施する。 ・造成浅場を活用し、水産資源の育成場として機能する方策を検討 ・造成浅場を水産資源の生産の場として活用する方策を調査、検討する。 ・美保湾の重要魚種であるカタクチイワシの持続的で効率的な利用を考えるため、資源動態や漁場形成要因を検討する。	(成果) 開発中の簡易魚礁(市販のコンクリートブロック)に餌場としての機能を追加するため、5月中旬、下旬に母藻設置による藻場造成試験(対象海藻:ウミトラノオ)を行い、海藻を付着させることに成功した。 春に中海の浅場に多く出現するマハゼの幼魚を用いた養殖試験を地元企業と行い、養殖開始後102日には出荷サイズ(体長約15cm)まで成長させることが出来、サンプル提供した飲食店からは珍しい上、美味しいと高評価を得た。 漁獲されたシラスの全長や他種の混ざり具合、漁場を把握できた。 (課題) 養殖種苗に用いるマハゼの大量採集に労力を要する。また、コストに見合う販売単価の設定が難しい。
水産試験場管理運営費(水産情報発信事業)	13年度～ 円 (71,094,000) 13,386,470	海洋資源室	(単) ・漁海況情報(漁模様、水温等)及び試験操業・調査結果をわかりやすく提供する。	(成果) 大型ポスター(月1回)・海洋環境水産資源レポートの発行、漁海況連絡会議等の開催、イカ水揚情報の電話案内、水温分布図、沿岸潮流観測ブイの観測データ(潮流情報)公開等を行った。

				(課題) 沿岸潮流観測ブイは、定期的な整備等による管理を行っているが、太陽光パネルの経年劣化が激しく、充電不足により観測できないなど運用面で支障が出てきている。スマート漁業推進事業で国の補助事業を活用し新規で1基調達するが、今後も安定運用が課題となっている。
スマート漁業推進事業	円 (20,282,000) 85,282	海洋資源室	(補助、単) 県沿岸域における海況データを漁業者参加のもと高頻度、広範囲に収集し、解析することで高精度な海況予測システムを導入する。	(成果) 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
計	円 (129,881,000) 35,975,839			

19 船舶運航調べ

(令和2年1月31日現在)

事業名	出航先	期 間		乗 船 者			備 考
		月日～月日	日数	調査員	乗務員	その他	
海洋環境変動調査	第1区	H31.4.9～H31.4.9	1	2	11	0	
		H31.4.11～H31.4.12	2	2	11	0	
		H31.4.22～H31.4.24	3	2	11	0	
		R1.5.29～R1.5.31	3	1	11	1	
		R1.6.24～R1.6.28	5	2	11	0	
		R1.7.24～R1.7.26	3	1	10	4	
		R1.9.2～R1.9.4	3	1	11	0	
		R1.9.25～R1.9.26	2	1	11	0	
		R1.10.28～R1.10.31	4	1	10	3	
		R1.11.26～R1.11.27	2	1	11	0	
浮魚資源変動調査	第1区	H31.4.3～H31.4.4	2	1	11	0	
		H31.4.16～H31.4.17	2	2	11	0	
		R1.5.21～R1.5.23	3	2	11	0	
		R1.6.3～R1.6.5	3	2	11	0	
		R1.6.10～R1.6.12	3	1	11	0	
		R1.6.17～R1.6.19	3	1	11	0	
		R1.7.29～R1.7.31	3	1	11	0	
		R1.11.5～R1.11.7	3	1	11	0	
底魚資源変動調査	第1区	R1.5.14～R1.5.17	4	2	11	0	
		R1.7.2～R1.7.5	4	1	10	0	
		R1.7.9～R1.7.11	3	1	11	0	
		R1.7.16～R1.7.17	2	1	10	0	
		R1.8.8～R1.8.9	2	1	11	0	
		R1.8.19～R1.8.21	3	2	11	3	
		R1.8.29～R1.8.30	2	2	11	0	
		R1.9.9～R1.9.11	3	1	11	0	
		R1.9.30～R1.10.1	2	1	11	0	
		R1.10.8～R1.10.10	3	1	10	0	

		R1. 10. 16~R1. 10. 17	2	1	11	0
		R1. 10. 23~R1. 10. 25	3	1	11	0
通常保守整備ドック船体回航	第1区	R1. 12. 9~R1. 12. 10	2	0	10	0
合計			85	40	334	11

20 用船の状況調べ

(令和2年1月31日現在)

事業名	調査内容	隻数	出航先	借上げ延日数	金額 (円)		備考
					計	使用料内訳	
中海・美保湾資源生産力調査	造成浅場における出現生物の季節変化の把握等実態調査	1	中海鳥取県側沿岸	日 6	180,000	30,000円/日×6日	3t未満 1隻
水産試験場管理運営費(水産情報発信事業)	沿岸潮流観測ブイの回収、設置	1	大山町御来屋沖	2	200,000	100,000円/日×2日	定置網漁船9.7トン1隻
合計		2		8	380,000		

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等
特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等
事務監査日程についてですが、可能であれば3月実施より2月実施でお願いできればと考えます。